館報千代
第312号
発行
千代公民館
編集
広報委員会
印刷
龍共印刷株式会社

＜千代の人口＞
令和２年８月末日現在
男　774名（＋２）
女　854名（－１）
合計　1,628名（＋１）

地震総合防災訓練

生活安全委員長
牧田忠弘

八月三十日（日）に地震総合防災訓練を行いました。

全市一斉訓練

○安全行動訓練（シェイクアウト訓練《地震発生時、ダンゴムシのようにまるくなる》・プラスワン訓練（当地区では防災倉庫の備蓄品点検）
○避難所開設・運営訓練（小学校も開設）
○避難行動要支援者への支援・避難誘導訓練（助け合いマップを活用）

をメインに、千代地区重点訓練等も合わせて行いました。

安全行動訓練・避難訓練には「一二七八名」と多くの参加・協力をしていただきました。

訓練で想定された震度六弱、強という地震が起こらない事が一番良いのですが、万が一災害があった時には訓練通りに区長、代理の方が避難所開設ができる訳ではありません。集まった人達で手分けして活動していただける様「常に自分が」という意識を持っていただける事をお願いします。

赤十字奉仕団千代分団
分団長　**関口久美子**

新型コロナの影響で、二月中旬から活動の自粛が続いていた日赤ですが、地震総合防災訓練に合わせて、炊き出し訓練を行いました。コロナ感染防止のため、少人数でソーシャルディスタンスや消毒等、今までとは違う炊き出し風景でした。一年ぶりとなった炊き出しは、手順に不安があったり、計量ミスがあったりして、しょっぱいおにぎりを食べていただいた方、申し訳ありませんでした。

どんな場面でも、おいしいおにぎりを提供できるよう、訓練の必要性を感じる出来事でした。

出来上がったおにぎりは、「バイク隊」によって下村法全寺へ届けられました。失敗はありましたが、コロナの影響を受ける中、協力や工夫をして、予定通りに訓練を終了できました。

コロナで制限がある中ですが、日赤の活動が地域の力になるよう、ご理解ご協力よろしくお願いします。

まちづくり委員会と市長との懇談会

まちづくり委員会と市長との懇談会が七月二十八日（火）午後七時半から千代公民館で開催され、今年は市の要望もあり新型コロナウィルスの関係から三密を避けるため昨年までの市政懇談会を改め、大幅に規模を縮小し少人数と短時間で情報交換できるよう設定し臨みました。

その為、今回は現執行部と市側から牧野市長、代田教育長、松下市民協働環境部長が参加され約一時間の予定で開催しました。

第一部と第二部に分け、第一部で市政経営の方向と課題「いいだ未来デザイン二〇二八の本年度重点取り組みと中期計画の策定に向けて」～二十地区基本構想・基本計画推進の取り組みとともに～と題して牧野市長から説明を頂き、第二部ではフリートーキング形式で千代まちづくり委員会よりテーマ「第四次千代地区基本構想策定に向けて」と題して、千代地区における今年度の重点事業について会長より説明を行い、市長からは「千代地区で取り組んでいる事業は非常に重要であり市としても引き続き支援していきたい」と発言を頂きました。

また、熊谷産業振興部長より「千遠線開通を見据えた新しい観光資源の活用」、島岡総務企画部長からは「人材育成と情報発信」について発言し、市長より「観光資源の活用については自然の保護と人の対応が重要」、「地方は人材の宝庫である、地方の魅力を発信することで都市部の人を引き寄せることが出来る」などアドバイスを頂きました。

短時間の懇談会でしたが市とまちづくり委員会との意思疎通が図られたものと思います。市長との直接話が出来る良い機会でしたが時間が短く執行委員からの質問やご意見を伺うことが出来なかったことは非常に残念でした、来年に向けての反省点としたいと思います。

千代グリーンツーリズム今年の受け入れは断念

『千代地区グリーンツーリズム推進委員会』では、七月三十一日（金）に、体験修学旅行受入家庭研修会を開催しました。例年ですと説明会と題し、四月末に行い、南信州観光公社の研修を受け、五月から始まる修学旅行生の受入れに備える筈ですが、今年は春からの受入れがゼロの状態で、秋口からの受入れを見込んでの研修となりました。

内容は、感染症予防対策の講義が主となり、今後の受入れスタイルや体験内容に影響があること、学校側、受入れ側、受け入れ地区の安全を確保する為の体制づくりが必須となるなどの話し合いをもちました。

平成八年から続く農家民泊の歴史の中で、おそらく受入れゼロは初めての出来事と思います。近年では、年間で四十回、約三百五十～四百件、約千五百人程の方を受け入れていましたが誠に残念な事態となっております。

しかし、ここで弱音を吐いている訳には参りません。今こそ千代の底力を発揮する時です。安全と安心を第一に今後もグリーンツーリズムを盛り上げていく為、地区のみなさまのご理解とお力添えをよろしくお願いいたします。

地域おこし協力隊 高橋さん着任

まちづくり委員会からの要望に基づき、昨年度から飯田市において千代地区の新たな地域おこし協力隊募集が開始され、この度、新たな協力隊として高橋稔（としふみ）史さんが採用された。八月一日着任し、主に千代地区への移住定住推進や地区内の空き家対策等に取り組みます。

高橋さんは愛媛県四国中央市出身の二十六歳。千代地区内に居住する予定ですが、都合により現在は龍江に在住。山梨県の都留文科大学を卒業後、東京学芸大学大学院を経て自然豊かな長野に魅力を感じ上高地で勤務。安曇野から見える山々が好きで、焼岳、蝶ヶ岳、常念岳等へ登り、お気に入りの景色をカメラに収めたり、トレイルランニング、博物館巡り等の趣味をお持ちです。

今までの経験を活かせたらと、地域おこし協力隊として活動することを希望し、千代地区をひとつの博物館と捉え、地域文化の向上、地域の歴史・文化の保存、地域環境の保全などを目指している。『多くの人と知り合う中で現状と課題を把握し、まちづくり委員会と連携して地域に根ざした活動を行う事で役に立つことができたら』と意気込みを語った。

よこね田んぼ案山子コンテスト

よこね田んぼ保全委員会では第二十一回案山子コンテストを九月二十二日（火）まで開催しています。

昨年は二十二作品が出展され賑わいましたが、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止、安全面に配慮し地区外向けの大規模な募集を見合わせたことにより、千代地区内を中心に少数精鋭、十一作品の案山子たちが集結し、黄金色に輝く棚田の中でよこね米たちに負けず劣らず輝いています。

コンテストの結果は九月二十六日（土）開催予定の稲刈り・収穫祭で発表されます。

尚、入選作品は館報三一三号に掲載予定です。

イナズマ

夏も終わり秋の虫の鳴き声もするようになってきた。

昔であれば八月の盆が過ぎた頃から朝晩は涼しくなってきたものだが、今では一ヶ月以上も遅くなっているように感じる。

気象庁のホームページを見ていたら地球温暖化についての記事を見た。地球表面の七割を占める海洋は地球全体で蓄積された熱エネルギーの九割以上を吸収し、大気中の二酸化炭素の濃度の上昇を抑えているようだ。海洋は熱を吸収することで、自身も温暖化して、海水温が上昇している。

世界各地で深刻な被害を起こしている異常気象の正体は海水温の上昇にあるようだ。海水温の上昇が特に顕著なのがインド洋で、周りが囲まれていて温まりやすく、ここ五十年で〇・六度も上昇している。海面水温が二十八度Cを越える海域の上空では積雲活動が活発になる。

日本でも今年は、長い梅雨が続いた。線状降水帯による積乱雲群によって長い時間、同じ場所で雨が降りつづけ、多大な被害をもたらした。

こういった異常気象や極端現象は今後なくなることはなく、予測技術が進歩してきている今、情報をいち早く入手して自分や家族を守っていくしかなさそうである。もう昔の気候には戻らないのだから！

米川花火

夏祭り

米川花火

保育園夏祭り

毎年、保護者の方々や地域の方々にも参加していただいて、夕方から夜にかけて盛大に行ってきましたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、七月十七日(金)平日の昼間、それぞれの保育園で園児と職員のみで行いました。年長さんが中心になって、みんなで楽しい夏祭りになるように計画をしたり、準備をしたりして当日を迎えました。

お家の人にも気持ちは一緒に参加してもらえるように、家族の似顔絵や、短冊に願い事を書いてもらったりして飾り、にぎやかな七夕飾りが雰囲気を盛り上げてくれました。

当日は、お揃いのかじかがえるTシャツを着て、手作りのおみこしを気負ったり、盆踊り、夜店を楽しんだり、年長さんが企画した「おばけ迷路」や「おばけのお店屋さん」等も大盛況でした。

お昼やおやつは、焼きそばセットやポップコーンで屋台気分を味わいました。

年長さんのバケツ太鼓「千代豊稔ばやし」も初披露。かっこよく決まりました！

例年とは違う夏祭りでしたが、計画から当日まで自分達で考え、子ども達のやりたい事がたくさん実現した夏祭りになりました。

この夏は地域のお祭りが次々と中止になりましたが、子ども達の笑顔がいっぱいで、心に残る夏祭りができた事を嬉しく思います。

盆踊り（千代）

おみこし（千代・千栄）

年長太鼓（千代）

年長おばけ（千栄）

米川盆花火

八月十五日（土）に米川盆花火が打ち上げられた。

本来であれば米川夏の祭典として盆踊りと花火大会が行われるのであるが、今年はコロナ禍により中止となったが花火のみ有志の手によって開催された。

飯伊地区の祭り、花火大会は軒並み中止となってしまい、花火を楽しみとしている人々にとって寂しい夏となってしまったが、この千代地区に於いては腹に響く花火の音が轟いた、やはりこの音がないと夏を迎えた気分にならない。

さて、来年は各地で祭と花火大会が開催されるかどうか気になるところだ。

米川児童会

竜東中花壇作業

三年　小嶋風雅

今年は六、七月の長雨で延期され続けていた花壇作業。いつもとは違い気温も高く湿度も高い。暑さとの戦いとなりました。自分が三年生として地区花壇のデザインを担当しました。

この花壇作業で作られる花壇は、地域の復興にもなるため、地区長として例年以上に気合を入れて挑みました。

花壇に定植した花は、自分たちがフラワーデーで育てた花なので、みんなが心を込めて植えることができました。

自分の考えた少し分かりにくいデザインから想像する何倍も素晴らしい花壇ができ、驚きと感動でした。

夏休み中は、猛暑の中水やりをみんなで頑張りました。道を通る地域の方々が喜んでくださる花壇になってくれるとうれしいです。

フォローアップ教室

健康福祉委員長　榊山信雄

コロナ禍の中で

本年度のフォローアップ教室は、新型コロナウイルスの影響で六月まで開催することが出来ませんでした。

七月十七日よりフォローアップ教室が再開されました。感染症対策として検温、消毒、マスク着用など徹底して開催し、時間も短縮して行っています。今年は新型コロナウイルスに加え高温で熱中症にも注意をし、水分補給をしっかりして行っています。参加いただいたみなさまが再開を心待ちにしていただいた事や、マスクごしに笑顔が見えたことが大変嬉しく思いました。健康福祉委員、介護予防サポーターの皆さんの協力をいただいて、新型コロナウイルスに感染させる事のない様注意して行きたいです。また各区で行っているいきいき教室も七月から再開しています。おなじ様に感染症対策に注意を行って行きたい。一日も早く、おやつを食べてみんなでわいわい話しが出来る様願っています。

キラリ、千代人（ちよびと）

ファイルNo.007

太田いく子さん（七十才）　米峰在住

”いくちゃ”の愛称でよばれている太田いく子さんは、平成七年に地域を良くしたいと思い、千代の為に”やらまいか”精神で平成十年にふれあい農園おおたを始めた。農家民泊・食品営業・どぶろく製造等の許可を家族の協力の元取得し、地元・他県から大勢、大人から子供まで楽しめる民泊を営んでいる。

千代ネギの会にも参加しており、平成三十一年には品質管理や生産者の拡大に取り組み信州伝統野菜に認定された。

八年程前からは、ボランティアで毎朝、米峰・毛呂窪の小学校の子供達の見送りを行い地域の為に貢献している。

現在、新型コロナウイルスの影響で民泊の受け入れは出来ないが、収束をしたら、健康を考えふれあい農園おおたを再開し、千代の為に頑張って行きたいと、話をしてくれた。

告知板

○十月十一日（日）
千代マレットゴルフ大会

○十月十八日（日）
飯田市長選挙投票日

○十一月十五日（日）
千代地区文化祭in千代小

戸籍の窓

○かなしみ

林　みさ子　九十三歳

孝子　母（米川）

川手　智恵　九十一歳

祐一　母（法全寺）